心臓病の犬の散歩について ~時間の観点からの考察~

小5

#犬の心臓病
#獣医学
#多元的医療論
#散歩

【当該研究（とうがいけんきゅう）の状況】・
・薬で直す方法と食事療法が一般的にあること
・心臓病の犬は心臓への負担を避けるため絶対安静するべき
・心臓病の犬の持つ症状にはせき、疲れ、呼吸困難、

【先行研究への問題意識】
心臓病の犬は心臓への負担を避けるために絶対安静にするべき
→
絶対安静や心臓に負担を与えないという研究しかないが、他にも医療法はあるのではないか？

【RQ】
心臓病の犬が長生きするために散歩が与える効果とは

【RQに対する仮説】
・散歩することで日光（紫外線）に当たることにメリットがある。
・歩く事で血行 がよくなり健康に繋がる。
・散歩の時間を少しずつ伸ばしていくことで健康につながる（いきなり長時間）

【研究目的】心臓病の犬でも、心臓の負担を減らすことだけに注目するのではなく、運動や食事など犬の総合的な健康を考えることが結果として長生きすることにつながることを明らかにしたい。

【研究内容・方法】
①日光に当たることで得られるメリットについて
②血行が良くなることの効果について
③心臓病の犬に適した散歩の時間の取り方について
→科学的根拠を用いて明らかにする

【結果(RQや仮説に一言で回答すると)】
・散歩をいきなり長時間にすると危険。

【結果の詳細】
①日光のメリット
・日光に当たるとビタミンDが合成される
・セロトニンが分泌される。セロトニン分泌量が少ないと、イライラ感や衝動性（しょうどうせい）が高まる。定期的な適度の運動（散歩）でこれらをなくすことで犬の負担を軽減できる

【結論】
・心臓病の犬の散歩には身体的、精神的に効果があると考えられる。
・しかし、走ると心臓に負担がかかり悪影響を生む。
・よって、普段から短時間の散歩を続けること、散歩中に走らないように抑えることが適切であると考えられる。

【考察・今後の課題】
・心臓病の症状を調べた際に「不整脈」が出てきたが、それについて調べられていない。

【参考文献】

・名和田清子「ビタミンD必要量の検討：日光曝露によりビタミン Dはどれだけ産生されるのか」 2021
https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20K11606/

・小西正良「セロトニン分泌に影響を及ぼす生活習慣と環境」 ,『Journal of Osaka Kawasaki Rehabilitation University』, 5号, (2011). pp.11-20
https://cir.nii.ac.jp/crid/1050285299827544832

・中島英彰「日光によるビタミン D の生成」,『ビタミン』, 94 巻 9 号, (2020).
https://www.jstage.jst.go.jp/article/vso/94/9/94_469/_pdf/-char/ja